



はじめに

札幌教区 司教 ベルナルド・勝谷太治

主の平和

教皇フランシスコが来日され日本社会に強烈なメッセージを残して行かれました。核兵器廃絶をメインとした武力によらない平和構築、死刑や難民移民等の人権、災害や事故の被災者への継続的支援、温暖化等の環境問題、そして若者をはじめ、多くの生きづらさを抱え社会の片隅に追いやられた人々への寄り添い。その中であって信仰をどう生きるか。私達に突きつけられた現実と課題は、待たなしに私達にその対応を迫っています。

今こそ、神の国実現のために働く人が求められています。教皇様は若者に向けて呼びかけられました。「世界はあなたを必要としている、それを決して忘れないでください。主は、あなたを必要としています。今日、起き上がるのに手を貸してほしいと求めている多くの人に、あなたが勇気を与えられるのです。… 最も重要なことは、何を手にしたか、あるいはこれから手にできるかと言うことではなく、あなたがそれを誰と共有するのかという問いの中にあるのです」

神学生通信第2号を発行します。主の呼びかけに答えて共に働く人を求めています。

神学生通信第2号発行について

教区神学生養成担当 ポナヴェントウラ・蓑島克哉

常日頃から物心両面にわたり神学生のためにご支援とお祈りを賜りまして心より感謝申し上げます。世界規模でのコロナ・ウィルス感染拡大という非常事態を受け、昨年と同様、今年も召命の集いを中止とせざるを得ませんでした。そこで今年は、神学生通信第2号を発行することにいたします。皆様におかれましては、どうかこれまで以上に召命のために祈っていただきますようお願い申し上げます。

司祭召命

教会における召命は、キリストの無尽蔵の富の現れであり、それゆえ深く心に留め、多大な気遣いを配って培う必要があります。神の民の間で、聖霊が絶えなくもたらした多くの召命の中で、司祭職の召命は、キリストの位階的祭司職への参与に対する呼びかけであり、キリストとともに一体となって神のことばと恵みをもって教会を牧する役割への召し出しなのです。この召命は、人生の異なる年齢に応じて、違った形で示されます。青年や大人、そして教会の歴史をみってみると子供たちの間でも着実にみられるものです。

教会の使命は、特に司祭召命における召命の誕生、そのための同伴と識別を配慮することにあります。教会はまた、キリストがすべての人に呼び掛けた、収穫のために働き手を送ってくださるよう収穫の主の願いなさいという声を受け入れ、奉獻生活者と司祭の召命に特別な配慮をしています。
(教皇庁聖職者省「司祭召命の賜物」司祭養成の為の基本要綱)

「召命はすべての人々に呼び掛けられている神からの招きです。結婚、修道者、司祭、独身者、いろいろな形でわたしたちは、神の国の建設の協力者になるよう召されています。とくに教会において、祭司職は、イエス・キリストから委ねられた神と人への奉仕職です。すべての司祭は「仕えられるためではなく仕えるため」(マタ 20・28)に来られたキリストにならい、自分の利益や満足のためではなく、人々の救いと善のため、とくに貧しい人、社会から虐げられている人々のために働きます。神の民である教会は唯一のキリストの祭司職にあずかっていますが、司教と司祭は役務としてのキリストの祭司職を授けられています。司教・司祭は叙階の秘跡によって、教会の頭であるキリストご自身から権能を与えられ、キリストの代理として、キリストの名において奉仕する者となります。彼らも人間的な弱さを帯びていることは言うまでもありませんが、キリストの代理者として執行する秘跡は、必ずイエスを通してその恵みに与ることができます。司教、司祭を通して働かれるのは今も生き続けているキリストご自身だからです。」

(神学生通信・第1号、場崎神父による「カトリック教会の教え」からの抜粋)

神学生の紹介

札幌教区の神学生は、神学科2年ペトロ・千葉充と、予科生アントニオ・ビンの2名です。あわせて、札幌教区で初となる終身助祭に叙階されたジョルジュ・桶田達也師を紹介します。



主とともに

神学科2年 ペトロ・千葉充(小樽教会出身)

大きな樹々に囲まれ、東京郊外に佇む神学院に入学し早三年が経ちました。そして、この春に勝谷司教様より朗読奉仕者の選任をいただきました。日頃皆様からの祈りに支えられ、こうして今年も神学院での生活を続けさせていただいております。心よりお礼を申し上げます。

2018年に入学した当時は、日本カトリック神学院最後の入学生としてはじまり、その後東京と九州に分かれ、現在は東京カトリック神学院で24名の各教区と修道会から集った神学生達と共同生活を送っております。

「なぜこの道を？」多くの方々から尋ねられるこの問いを自問してみますと、一言では表しようのない、なにかに突き動かされるような、心が動かされるというような体験であった思い出します。それが神の呼びかけであることを、少しずつ確信していくような神学院生活であると感じています。神学生としての生活を一日一日重ねていきますと、自分の力では到底歩いていくことのできない道、急な上り坂、そして自分の非力を見せつけられることもあります。そのような時に、自分を越えた大きな力がはたらいていることに「はっ！」と気づくことがあります。生まれてから今日まで、たくさんの出会いと恵みをいただいたことに強い感謝の念が湧き上がり、これからの道もたくさんの人達の祈りと支え、そして主が共に歩いてくれるのだという思いに到ります。

神学院での養成は、共同生活を通して人間的に、哲学・神学の授業を通して知的に、毎日の典礼と種々の個人的祈りの時間を通して霊的に、そして対外活動となる実習を通して宣教司牧的養成が成され、この「四つの柱」を各神学生が築いていくと言われております。しかし、それぞれが別個

ではなく、どれもが互いに補い合い、支え合って、四つが一つの太い柱になっているように思います。それは「主」という尊い存在によって結ばれ、四つの柱は一つになっているのではないのでしょうか。そのように考えながら、これから始る新しい一日一日を大切に歩んでいきたいと思います。

引き続き、神学生のために、そして新たな召し出しのために、お祈り下さいますようお願い申し上げます。



アントニオ・ビンです

予科生 アントニオ レ・シュアン・ビン(ベトナム出身)

皆様がお祈りをしてくださったので、東京カトリック神学院に無事に着きました。心から感謝申し上げます。東京での毎日祈りの中で、札幌教区の皆様お一人お一人のことを忘れずに、祈っております。

4月12日から授業を東京教区、京都教区の同級生と始めています。平日に作業、典礼音楽、聖書やカトリック教会のカテキズム、第二バチカン公会議文書などを学んでいます。日曜日は近くにある関町教会で、朗読、侍者、聖体奉仕をしています。そのおかげで、私はカトリック教会の信仰がもっと分かるようになって、教会と神様への思いを強固にしています。授業以外では、毎日ミサと朝昼晩、寝る前の祈りの中で神様に会うことができます。そのため私は神様が隣れみ深いことを感じて、人生を神様に捧げ委ねようと思います。

この先、神学を学ぶとき、厳しい状況になるでしょうが、私は頑張りたい気持ちを持っています。皆様に祈っていただければ、幸いです。神学院の先生方は新しい環境に慣れるようによく励まして、温かい心で色々なことを教えて下さっています。私は外国人であるゆえに、新しい場所で生活することに少し不安があります。例えば神学院での日本語の授業や、日本の習慣にまだ私は慣れません。しかし先輩方と同級生は親切に接してくれ、生活の中でもし分からないことがあったら、すぐ手伝ってくれます。ですから私はだんだん神学院の生活で、自信を持って来ています。私は同じ札幌教区の先輩である千葉さんに困った時、質問をしますので、ここでの生活に安心して取り組みます。

今はコロナがまだまだ減っていないので、大変なことが多いですが、皆様がイエスの復活の恵みの中にいらっしゃることを心から願っております。皆様ありがとうございました。



修行は続くどこまでも

終身助祭 ジョルジュ・桶田達也師(北一条教会出身)

終身助祭の桶田達也(おけた たつや)です。

3月24日の叙階から2ヶ月が経ちました。直後の聖週間、朴宰爽(ぱくせぞく)主任司祭と揃っての小教区(小野幌教会、大麻教会、江別教会)赴任、早速の平日の集会祭儀、地主敏夫名誉司教様の御帰天と御葬儀、事務局長を兼務させて頂いております北海道カトリック学園の決算業務。振り返りますと随分盛り沢山の2ヶ月間でした。小教区の皆様には、新米助祭を暖かく、懐深く受け入れ、お世話いただき、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。お陰様で多少胃薬のお世話になりましたが5月病にもならず何とか乗り切ることができました。

しかし、この間、叙階に際し一方ならぬお心遣いを頂きました皆様にはお礼を申し上げるゆとりもなく礼を欠く体たらくをお見せいたしております事、誠に申し訳なくお詫び申し上げます。お許しください。

主任司祭の朴神父様からは、助祭としての経験を積むようにとのご配慮から、入門コース、結婚講座、納骨式等々、様々な折に触れ役割を当てていただいております。札幌教区における終身助祭のあり様についてはまだ五里霧中ですが、経験を積む中でおのずと導かれるものと思っております。今年度は10月から東京カトリック神学院での聖書学の聴講も予定されております。まだまだ経験しなければならぬ、学ばなければならぬ事柄が山積みです。まだまだ、多くの方々のご理解とご厚情に頼りながらの修行は続きます。従前と変わらぬお声掛けとお祈りをよろしくお願い申し上げます。

東京カトリック神学院について（東京大司教区ホームページより）

東京カトリック神学院は主の呼びかけに応え、主のぶどう畑で労苦を惜しまず働くカトリックの教区司祭を養成する場です。

すべての司祭は「キリストの福音の業をこの世の人々に証し、伝え、キリストが定められた秘跡を通して人々に光と力を与え、神に向かって旅する人々の中であって彼らと共に歩み、彼らの為に祈る」という使命があります。ところで司祭にはその働きや所属に応じて修道司祭、宣教司祭、教区司祭等の区別があります。当神学院において養成される教区司祭の召命は、司教に結ばれて司祭団の一員となり、信徒、修道者、司祭、司教と協力しながら、信じる人々及び、この社会のすべての人々を対象とした福音宣教を目的とします。教区司祭には、信徒や修道者の召命の意義を十分に理解し、信頼と尊敬の中に互いに協力し神の民全体を豊かにすることが求められます。他の召命を理解し、その召命を生かすことができるような司祭が求められているのです。こうして、教会共同体の中で重要な役割を果たす存在になり、社会の福音化のために働く共同体の魂にもなることができます。

この召命に応えようと心から望み、共同生活を協調してやってゆける人、明るく謙虚な人であれば誰でも教区司祭になる道が開けています。志願者は、カトリックの洗礼を受けて、2年以上の信仰生活を送っている独身の男性であることを要します。教区司祭を希望される方は、まず所属される教会の司祭か特に親しくしている司祭に御相談ください。その司祭の推薦によって、その後司祭として所属する教区の神学生養成担当委員との面接、及び司教の面接後、その司教の推薦に基づき東京カトリック神学院を受験することになります。

入学後の養成期間は7年間です。その間、神学生として共同生活しながら、祈りや黙想、さらに院外の使徒職活動によって自己の召命を深めます。これらのすべての活動を通して自己を奉献することを学び、召命の確信を深め、将来教区司祭として立つ心構えを育てていきます。

こうした養成の後、教区司祭になる決意を表明し、当神学院院長の推薦を受けた神学生は、所属する司教区の司教の決定に基づき司祭に叙階されます。

東京カトリック神学院からは毎年数名の神学生が司祭として巣立ち、各教区で様々な活動をしています。主のぶどう畑で働こうとするあなたが、この東京カトリック神学院に来られることを神学院一同お待ちしております。

東京カトリック神学院 入学審査要綱

A.入学志願者の資格

当神学院は、次の条件を備える者を予科入学志願適格者としています。

- (1)生涯、司祭として自分をささげる決意をもっていること。また、司祭への志願が本人の自由な意思に基づいていること。
- (2)受洗してカトリック信者としての生活を2年以上過ごし、堅信を受けている21歳以上で、原則として40歳までの独身の男子であること。
- (3)所属教区の司教によって志願者と認められ、推薦を受けた者であること。志願しようとする者は、次の手順を踏むことになる。
 - ①志願者は、所属する教会の司祭か、よく接触している司祭の指導を受ける。
 - ②その司祭が志願者の成熟と決心とを確かめた上で、司教に推薦する。
 - ③司教は教区の養成担当者に諮問し、その答申を受けて神学院院長に推薦状を書く。
- (4)最終学歴が高校卒業以上であること。

東京カトリック神学院は教皇庁立ローマ・ウルバノ大学神学部と提携しているため、所定の教科課程を終え、ウルバノ大学の神学士号取得試験に合格するとウルバノ大学の神学部の神学士号を取得することができる。神学士号の取得者は、ウルバノ大学、あるいは他の教皇庁立の大学の神学部・博士前期課程への入学の道が開かれます。取得条件は、①ラテン語、ギリシャ語、ヘブライ語の単位習得。②神学の全成績が平均点以上。③神学研究論文作成。

- (5)日本語を母語としない外国籍の志願者は、当神学院が実施する検定により日本語能力試験1級レベルであることが認定された者(ただし日本の高校を卒業しているか、またはそれと同等の日本語力を有する者は、その限りではない)。

B.修道会・宣教会の神学生の受け入れ

当神学院は、上記の入学志願者の資格に準じて修道会・宣教会の上長から推薦された神学生は、入学審査の上、受け入れます。

終身助祭制度および養成

日本カトリック司教協議会は、1994年度定例司教総会において、満場一致の意思により日本のカトリック教会として「終身助祭制度」の導入およびその実施を決定いたしました。札幌教区では2019年4月1日から導入されています(教区民への司教文書「札幌教区に終身助祭制度を導入します」)。

終身助祭とは、秘跡によって「助祭」に叙階された者であり、教会法上「聖務者」の一員である。独身者、既婚者を問わず、いかなる男性も定められた条件を満たし、神からの召命および本人の献身的意思があると認められた者は、所定の養成をうけることができる。離婚歴のない男性が原則としてその対象であり、助祭叙階後に新たに婚姻を結ぶことは認められない。志願者としての受入れ年齢条件は、非妻帯志願者は満25歳以上満50歳未満、妻帯志願者は満35歳以上60歳未満を原則とする。教会の公的奉仕職に就く性格上、本人の家族の理解が望ましく、特に妻帯志願者の場合は、配偶者の理解と協力が必要である。教区司教ならびに終身助祭養成委員会の識別と、霊的生活、神学研修、宣教・司牧能力育成の3つの分野における養成をうけることになります。(「終身助祭制度および養成要綱」より要約・抜粋)

召命の集い

札幌教区では毎年5月の連休中に「召命の集い」(召命の黙想会)を実施しています。

入学志願者(司祭召命の志願者)として認められた者は、9月に行われる神学院の入学試験を受験し、合格すると10月から翌年3月までの半年間、養成担当者と一緒に住みながら予備養成をすることが義務付けられています。司祭への召命を感じた方は、所属する教会の司祭か、よく接触している司祭、あるいは、教区神学生養成担当デスク(011-241-2785)に相談ください。

終身助祭への召命を感じた方は、司教と終身助祭養成委員による識別を経て養成を受けていきます。こちらも教区神学生養成担当デスク(終身助祭養成委員を兼務)に相談ください。

おわりに

かつてのニュースのなかで、教皇フランシスコが周りにいた聖職者たちに向かい、司祭や修道女が最新モデルの車に乗っているのを見ると心が痛むと語り、車は仕事に無くてはならないものだが、どうかもっと質素な車を選んでほしいと伝えたことが大きく取り上げられていました。高級車が欲しいと思うなら、世界中でどれほど多くの子どもたちが餓死しているかを考えてくださいと、教皇様は自ら小型の車に乗ることによって模範を示されたのでした。皆様におかれましては平素より一粒会へのご理解と多大なるご支援を賜りまして心よりお礼申し上げます。札幌教区の司祭一同、これからも主の召し出しに応えるべく、教皇様と一丸となって聖務に努めて参ります。

2020年度「一粒会」会計 決算 (2020年4月1日～2021年3月31日)

(単位:円)

収入の部			支出の部		
科目	3月末決算額	備考	科目	3月末決算額	備考
献金収入	10,432,510		(神学院関係)		
召命促進の日献金50%	628,538		運営基本分担金	3,740,000	
受取利息	79		養成分担金	1,500,000	1人
			入学金	0	
			テキスト代等負担分	5,844	
			黙想会経費	0	
			小計	5,245,844	
			(神学生関係)		
			生活経費	1,186,400	1人
			黙想・合宿経費	107,570	
			受験費用	0	
			養成費	52,300	
			叙階式経費	22,700	
			選任式経費	0	
			諸経費	1,320	
			神学生通信	0	
			小計	1,370,290	
			(終身助祭関係)		
			聴講料・旅費	1,197,931	1人
			(司祭関係)		
			月例静修会経費	79,868	
			黙想会経費	0	
前期末前受金	0		外国人司祭養成費	1,031,800	日本語学校
前期末未収入金	0		小計	1,111,668	
当期収入計	11,061,127		当期支出計	8,925,733	80.7%
特別積立金取崩収入	0		特別積立組入支出	0	
前年度繰越金	10,306,235		次月度繰越金	12,441,629	
合計	21,367,362		合計	21,367,362	

(注)特別積立金残高= 121,312,432 円

教会のために召し出しを願う

神よ、わたしは、あなたの国のあかしびととなる人々が、数多く出るように祈ります。キリスト信者の心に聖霊の息吹を注ぎ、あなたの招きの声を強く響かせ、召し出しにこたえる清らかな愛を燃えさせたせてください。さまざまな立場で、自分の召し出しを考えている人々が、あなたの呼びかけにすすんでこたえることができるようにしてください。教会の母マリアよ、わたしたちの願いを聞きいれ、あなたの子イエスに取り次いでください。

(ベルナルド勝谷太治札幌司教認可)

フランシスコ会『祈りの手引き』より

札幌教区神学生養成担当、終身助祭養成委員 担当司祭一覧

- ・後藤義信神父(叙階 1981年)
- ・加藤鐵男神父(叙階 2008年)
- ・蓑島克哉神父(叙階 2019年)

●発行責任者:カトリック札幌教区 司教、教区神学生養成担当

●所在:060-0031 札幌市中央区北一条東6丁目10 札幌教区カトリックセンター内

●カトリック札幌司教区ホームページ・アドレス <https://www.csd.or.jp/>